

# 現代女性とキャリア連携専攻委員会

## 2011年度 推薦図書リスト

### ①書 名：音楽（三島由紀夫全集14）

著 者：三島由紀夫著

発 行：新潮社，1974年刊

所 蔵：図書館目白 請求記号：918.6-Mis-14

吉澤一弥先生（児童学科）の推薦のことば：ジェンダー教育の進歩，女性の社会進出が当たり前のこととなる現代日本。経済力，自由度，価値の多様性など享受することが多い半面，幸福であるという感覚はそれと並行しているといえるであろうか。虐待や不和などの家族の問題がクローズアップされ，心のカウンセリングが求められる実情を踏まえて，かつて「婦人公論」に連載された古典的小説から人間の不思議を考える。



### ②書 名：私の仕事—国連難民高等弁務官の十年と平和の構築—

著 者：緒方貞子著

発 行：草思社，2002年刊

所 蔵：図書館目白，図書館目白上代タノ平和文庫，図書館西生田 請求記号：369.38-Oga

高橋京子先生（食物学科）の推薦のことば：本書は，1991年から10年間にわたる国連難民高等弁務官在任中の仕事およびその後のアフガニスタン復興支援の仕事についてまとめたものです。難民援助の従来の枠を超えて，解決への糸口を模索し，判断する過程が記されています。難民問題についてたくさんのことを教えてくれる本であると同時に，どのような仕事の難題にも立ち向かう勇気を与えてくれる本だと思います。

### ③書 名：鏡のなかのヨーロッパ—歪められた過去—（叢書ヨーロッパ）

著 者：ジョゼップ・フォンターナ著 立石博高，花方寿行訳

発 行：平凡社，2000年刊

所 蔵：図書館目白，図書館西生田 請求記号：230.04-Fon

片山伸也先生（住居学科）の推薦のことば：ギリシア＝ローマ古典文化とキリスト教に染められた月並みなヨーロッパ論ではなく，常に内なる敵を見出してそれを否定することで自己を正当化するという自己認識／他者認識の構造（この他者を著者は鏡と見做している）によって，古代から現代まで絶えず「ヨーロッパ的なもの」が生み出されてきたことを論じた書。自らを正当化するためには他者を劣ったものとする他者認識が必要なのか。歴史書でありながら私たちの生き様にも厳しい問いを投げかけてくる1冊です。



### ④書 名：日日是好日—「お茶」が教えてくれた15のしあわせ—

著 者：森下典子著

発 行：飛鳥新社，2002年刊

新潮社，2008年刊（新潮文庫；8562，も-34-1）

所蔵（飛鳥新社版）：図書館目白 請求記号：791.04-Mor

増子富美先生（被服学科）の推薦のことば：著者は本学の卒業生で，「お茶」を通して日々体験したことを綴っている。自信を失った時，壁にぶち当たった時，大事なことは「長い目で今を生きるということ」というメッセージが伝わってくる一冊である。

### ⑤書 名：紛争と難民—緒方貞子の回想—

著 者：緒方貞子著

発 行：集英社，2006年刊

所 蔵：図書館目白，図書館目白上代タノ平和文庫 請求記号：369.38-Oga

伊ヶ崎大理先生（家政経済学科）の推薦のことば：国連難民高等弁務官として世界の様々な地域で人道援助の最前線に立ってきた緒方貞子さんは，世界から最も敬意を払われている日本人女性の一人ではないでしょうか。そんな緒方さんの歴史的証言です。



⑥書 名：『青鞜』と世界の「新しい女」たち

著 者：「新しい女」研究会編

発 行：翰林書房，2011 年刊

所 蔵：図書館目白，図書館西生田 請求記号：367.21-Sei

倉田宏子先生（日本文学科）の推薦のことば：2011 年は、日本の女性解放運動の原点となった女性誌『青鞜』（1911・9～1916・2）の創刊 100 周年に当たります。『青鞜』の発起人五人のうち四人が本学同窓生，初期の社員の六割強も同じく同窓生というように、『青鞜』は本学を舞台に生まれたといっても過言ではありません。本書は、それは何故かという問題を明らかにするために草創期の本学の教育に光をあてています。又、『青鞜』と世界の女性解放運動との相関性についても明らかにすることをめざしています。『青鞜』の「新しい女」たちの後輩である皆さんが、先輩たちの高い志を受け継ぎ、さまざまなかたちで現代に生かしてくださることを願ってやみません。



⑦書 名：1945 年のクリスマスー日本国憲法に「男女平等」を書いた女性の自伝ー

著 者：ベアテ・シロタ・ゴードン著 平岡磨紀子訳

発 行：柏書房，1995 年刊

所 蔵：図書館目白，図書館西生田 請求記号：289.3-Gor

新見肇子先生（英文学科）の推薦のことば：著者は 1928 年 5 歳で来日し，少女時代を日本で過ごした。1945 年 GHQ 民政局スタッフとして再来日し，日本国憲法草案の人事条項作成に携わり，男女平等を明記することに尽力した。外国人女性から見た当時の日本，女性の権利を保障する現憲法誕生までの経過を通して，働く権利という原点に立ち戻り，自己のキャリアを開拓してほしい。



⑧書 名：＜恋愛結婚＞は何をもたらしたかー性道徳と優生思想の百年間ー（ちくま新書；487）

著 者：加藤秀一著

発 行：筑摩書房，2004 年刊

所 蔵：図書館目白 請求記号：367.4-Kat

高頭麻子先生（史学科）の推薦のことば：日本の恋愛観・結婚観は，明治以降，キリスト教の夫一婦制とロマンティックな西欧恋愛文学が取り入れられて大きく変わった。ところが恋愛結婚の勧めは，富国強兵政策と結びついたのだった。西欧諸国でも，ダーウィン以後，優秀な血筋の遺伝によって強い国家を作るため，病人・弱者を排斥し，ナチスのユダヤ人迫害まで起こった。明治の日本では，妾を認める法律ができたり，政治家が美男美女の集団見合いを企画したり，福沢諭吉が実は差別思想を語っていたり・・・，と驚くような性道徳の紆余曲折がわかりやすく書かれた一冊。



⑨書 名：大学とは何か（岩波新書；新赤版 1318）

著 者：吉見俊哉著

発 行：岩波書店，2011 年刊

所 蔵：図書館目白，図書館西生田 請求記号：377-Yos

大枝一男先生（数物科学科）の推薦のことば：大学について論じた本は既に数え切れない程出版されているだろう。本書はそれらの中ではおそらく最新刊の 1 冊であろう。「あとがき」において著者は 2011 年 3 月 11 日に起きた大震災の後の困難にも触れている。しかし，本書は現在そのものを語るのが目的ではない。本書は 11 世紀後半，北イタリアのボローニャにおいてペポやイルネリウスという著名な法学者に学ぼうとする学生達がヨーロッパ各地から集い寄った史実から説き起こし，世界と日本の大学がその後の時代々々に影響を与えあるいは逆に影響を受けてきた推移を具体的に論じている。本書は大学と文明について省察する契機となるであろう。

⑩書 名：よくわかる最新ヒトの遺伝の基本と仕組みー教養としての身近な遺伝学入門ー（How-nual 図解入門）

著 者：賀藤一示，鈴木恵子，福田公子，村井美代著

発 行：秀和システム，2007 年刊

所 蔵：図書館目白 請求記号：467-Yok

深町昌司先生（物質生物科学科）の推薦のことば：遺伝子組換えや遺伝子鑑定といった言葉・技術が身近になってきているが，まだまだその実態が正確に社会で理解されているとは言えない。本書は「遺伝を知ろう，市民の会」の女性メンバー 4 名が，「教養のための遺伝学の入門書」として執筆したものである。内容が深い割に解説は平易で，イラストもふんだんに用いられているので，理系・文系を問わず，遺伝現象に興味を持つ方に一読をお勧めしたい。

